

白藍塾オリジナル

2018入試小論文分析&解答のヒント

2018年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

●慶応・法学部

課題文は、「現代社会のリスクに我々がどのように対処すべきか」を論じた文章。専門用語が多く、決して読みやすい文章ではないが、扱われている具体例に即して考えれば、決して理解できない内容ではないはずだ。文中では、リスクへの対処のあり方として、「事業の決定者と住民との議論の場を、強制や同調圧力を排した、開かれた対話の場にすべき」「地域の伝統的な知恵を生かして、技術を住民自身で制御可能なものにすべき」「信頼と不信の二者択一をやめ、不信をリスク発見に必要な要素と考えるべき」という3点を述べた上で、「リスク管理を専門家に任せるのではなく、リスクを皆で分かち合うことでリスクとうまく付き合っていくことが重要」とまとめている。結局は、この最後のまとめが全体のメインテーマと言えるだろう。

社会学のリスク社会論（現代社会を、産業や科学技術の高度な発達によって様々なリスクが生み出されるようになった社会と捉える理論）に基づいた議論であり、一見、法や政治、民主主義といった問題とかかわりが薄いように感じられるかもしれない。だが、よく読めば、これが民主主義のあり方をめぐる問題であることがわかるはずだ。例えば、原発再稼働問題などは、地域住民だけでなく国民全体の安全や安心にかかわる問題であって、行政や専門家に判断を任せきりにするわけにはいかない。そのように、リスクが多様化し、複雑化した現代社会においては、リスク管理のための政策などの決定過程にも一人一人の市民が積極的に参加し、またそれを可能にする民主的なシステムを作る必要がある。そうしたことが問題になっているわけだ。その点に気づきさえすれば、解答を考えるのもそれほど難しくはないはずだ。

設問では、400字程度の要約をした上で、それに対する自分の考えを論じることが求められている。「現代社会においては、リスクは皆で分かち合うべき」という考えへの賛否を論じるのが正攻法だろう。

とはいえ、これにノーで答えるのは難しい。イエスで答えた上で、民主主義や地域社会のあり方などと絡めて、市民参加型のリスク管理の必要性を論じるとよい。例えば、「リスク管理を一部の官僚や専門家に任せてしまうと、市民生活の実感や安心・安全を度外視した決定がなされる恐れがある。一人一人の市民が責任を持ってリスクと向き合い、それをどう管理するか合意形成をしてこそ、真の民主社会のあり方だ」「リスクの影響を直接被るのは地域社会の住民だ。行政が

一方的に判断するのではなく、地域住民がリスク管理をコミュニティ全体の問題として受け止め、リスク管理に積極的に参加するべきだ」「現代の複雑化したリスクは、一部の専門家だけでは対処しきれない。できるだけ多くの市民が議論に参加し、リスクに直面する市民の視点から多様な意見交換をすることで、効果的なリスク管理ができるはずだ」などの論が考えられる。具体例は、原発再稼働問題や地球温暖化問題、安全保障の問題、遺伝子組み換え食物の問題などなど、ニュースに関心があればすぐにいくつか思いつくはずだ。

逆に、ノーで答えて、「現代社会のリスクは複雑になりすぎているので、一般市民がリスク管理に参加するのはかえって危険が大きい。むしろ、専門家が世論に左右されずにリスク管理できるようなシステムを構築すべきだ」といった論じ方もできなくはないが、出題者の狙いからしても、それで説得力を持たせるのは難しいだろう。

©執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://www.hakuranjuku.co.jp>